

## 初代研究所長退任のお知らせ

今号は平成二十八年度内の成果発表の場ではあり、記録として残すのは若干時間的には適切ではないかもしれませんが、本研究所の初代所長である神谷正義教授が平成二十九年三月をもって退任されることとなりました。東海学園に奉職されてからのご活躍を含め、先生のご来歴の一端は、ご自身の玉稿の冒頭に触れられており詳細は省かせていただきます。しかし、本学での特筆すべき業績は、それまで培った仏教研究の広範な知識を基盤に、昨今様々な分野においても時代を切り開くキーワードのように喧伝されている「共生」の本義を見つめ、時代の流れも決して疎かにせず、今日の的なあり方を探ろうと模索されていた先生の人となりであろうと考えます。その成果の一部は、本誌の創刊号と今号にご寄稿いただいた両論考にも集約されており、まさに「共生」を校是とした本学園が設立した研究所の理念の体現者であったと評することができます。

また、そのお人柄に対しては、個人的にはインド由来の古いことばで、今でもスリランカでは時折使われることもあるアーサーダ・ムツカ(Asada-mukka)という言い回しに思いを致します。アーサーダは「鏡」を、ムツカは「顔・姿形」を表し、これが複合語となって「鏡のような人」という意味から、「人々の手本となる人」というほどの賞賛のことばとして用いられます。ちょうど日本語の「〴〵の鏡(≡鑑)」というような意味合いと通じるものがあります。

神谷所長の日々の言行は、まさに先生に接する人間にとっては「鏡のような人」アーサーダ・ムツカそのものでありました。今後も相変わらずのご指導とご教授を切にお願いする次第です。(南 記)